

第2回までの委員会における論点整理

論点	論旨
モニタリングの事前調査	取水が始まっていないので現状把握をする
	将来に備えて調べておくべきものは？
	新たに調べる項目として何と何があるのか？
	いろいろな調査をやられるときに、なるべく広めにやっていただきたい。
モニタリング項目、手法、評価	効率的にモニタリングするため何を見ればいいのか大きな問題
	調査項目の中に毎年の遡上量というは入れておくべき。
	一体どの地点で、いつ、何を調べておけばいいのか。
	生物界の因果関係については数値的にわかるものではない。
	効率的に、なおかつ効果的に調べていくためには一体何をみるかが重要。
	生物界の連鎖を考え、代表的なものを見ていくようにすべき。
	環境については、専門の方々の意見を聞く必要がある。
	段階的に少量の水から取水して問題ないか確認する
	栃木県側のアユの産卵床も含めて調査をして頂きたい。
	今のうちに見ておくべきことは何か。
	今のうちに調べておけばいいのか、何をモニターしていけばいいのか。
	何を調べ、何を今後モニターしていくか、この点が一番の問題。
	どの段階で何を確認するのか。
	何と何を調べるか詰めて、出てきたデータを点検していくのが仕事。
アユ、サケ以外の魚種等の生態に関する検討	アユ、サケ以外の魚種に対する検討が必要ではないか。
仔アユの降下量調査・解析手法	仔アユ降下時の分布について、教えてほしい。
	9月に降下する仔アユが重要。
	仔アユ降下時期のズレについて、モニターを行い運転に生かすべき。
	仔アユの降下時間は場所によって違うのか。
	流心のところが一番大きくなっている。
	仔アユの降下量について単純に積算するのは危険。
	アユの降下と遡上は年度によって相当バラツキがある。
	仔アユの降下量調査は1時間に1回の調査の方が後で詳しい解析ができる。
	仔アユの降下量は季節的な変化を含めて解析していただきたい。
	遊泳力があると回避する可能性が高いので降下量は低めに出る可能性がある。
魚類等の迷入による影響	那珂樋管周辺水域の水生物について、基礎的な資料が必要。
	魚返しの先行事例についてデータがあれば教えてほしい。
	ふき流しのサケ降下への影響が心配。
	施設周辺の水域にどうい魚がいるのか基礎的な資料が必要。
	迷入をゼロにできないんだったら、その分、放流数をふやすとか、いろいろな検討ができる

第2回までの委員会における論点整理

論点	論旨
外来種の移送による影響	霞ヶ浦から那珂川への逆送水について、いろいろ問題点が出てくるのではないかと
	水と一緒に流れ込む個体等による影響について注意深く見ていかなければならない。
汽水域、河口域の生態の状況	水量減による汽水域の影響が心配
	河口域の生態の状況を調べてほしい。
下流の河川、沿岸域の環境に対する影響	那珂川の河川環境の変化については、検討の余地がある。
	流下仔アユと翌年のアユ遡上数に相関があるのか明らかにしなくてはいけない。
	河川環境とか沿岸域の環境のほうが翌年遡上してくるアユの数に影響を与えているのではないかと。
	ふ化した死魚が河口域にたどり着くまでの減耗等についても総合的に考えないといけない。
	河口域の環境について、どう調べるか？(難しい)
取水による流量減少の魚類等への影響	取水によって下流域の水産生物にどう影響が出てくるのか。
	漁業関係者が心配している問題は基本的に3点に集約出来る。
	水量減少の影響、霞ヶ浦の水が来ること、漁民の方が心配している。
流量変化に伴う水質の変化	流量が変わると水質が変わるのではないかと。
那珂川の河川環境の保全	那珂川の流況と水質の関係についてどの程度情報を持っているのか。
	送水された水が何kmも上流へ行くのは考えにくい。
	那珂川の年間流出量はどれくらいなのか。
	漁業という視点から中流の水質も関係ないとはいえない。
委員会の進め方について	漁業関係者の方々が心配している問題に踏み込んで議論していくのか。
	漁業関係者の方々が心配している問題はなにか。
	今回の案は、魚類の迷入に特化しているのではないかと。
	一般環境に係わるような項目であっても発言頂きリストに含めていくのが妥当。
	委員会として、どの段階までのゴーサインを出すのか。
	環境について、するならば新たな委員を追加していく。
	この委員会でどこまで扱うべきかということについてははっきりさせていただきたい。
	霞ヶ浦の水を送水した場合に起こる問題について、どう対応をとるのか。
	霞ヶ浦からの水のやり取りまで議論する必要があるのか。
	委員の感触としては、さらに事業が進んだ段階での検討について事務局で検討。
	問題点の洗い出しをやっていただきたい。
工事中的問題	工事中的濁水の問題が出てくる。
	一粒の砂が出ないのかとういうとそうでもない。
事業の進め方	事業をやるか、やめるかのどちらかでは、必ずしもない。

第2回までの委員会における論点整理

論点	論旨
施設の運用について	どういふふうを活用していくのかという段階で、いろいろ問題になってくる。
	そこに水を入れるか入れないかという判断はまた別の問題。
	何が何でも水を長期間にわたって霞ヶ浦からこちらへ持ってくることにはならない。
	この事業は運用次第という面が非常に強い。
	実際に動かして見ないとわからないものがある。
霞ヶ浦の水質	水質浄化の説明には工夫が必要だ。
	自分の汚れで太陽光が届かなくなってそれ以上繁殖しないとか水質の問題は複雑だ。
	霞ヶ浦の水質の状況について教えてほしい。
那珂川・利根川の流況	那珂川と利根川の流況はダムによる人為的な影響があるのではないかな。
実物大実験について	幸いにして吸い口さえつけければ桜川まで持って行ける。
	実際の魚の動きを確かめることから実物大実験はどうしても必要。
	実際に取水域にきた魚なので非常に説得力がある。
	何かを試してみるというのは、何もしないよりは、意味がある
	試験的な取水と実際の取水で、どの位の違いがでるのか。
	今回の実物大実験について、言えば迷入は問題にならない。
	ソフト的なもの、ハードなもの、どちらが効果もつかわかるような実験をすべき。
除塵機型回転スクリーンの維持管理	除塵機型回転スクリーンの維持管理は本当に大丈夫なのか。
	除塵機にひっかかった有用なものをもどさなければいけない。
	除塵機型回転スクリーンの維持管理は非常に大変。
	除塵機型回転スクリーンの維持管理は本当に大丈夫なのか。